

いつも市民の目線で!!

“山さんのホームページ”

www.k-yamasan.com

寝屋川市議会議員

山崎 きくお



平成21年11月号 (第77号)

平成二〇年度決算を審査

国保会計の健全化が課題

一〇月二六日〜二九日の四日間、議会では「決算審査特別委員会」が開かれました。
そして、平成二〇年度の一般会計と六つの特別会計等の歳入歳出決算の内容を詳細に審査しました。

これは、国民健康保険特別会計（以下「国保会計」）の約二四億八〇〇〇万円の

全体では概ね健全財政

審査の結果、平成二〇年度の寝屋川市の財政運営は、厳しい経済状況の下で、人件費の抑制やアウトソーシング（外部委託）などを進めた結果、一般会計の実質収支額で約一億八六〇〇万円の黒字を計上するなど、概ね健全財政であったと評価できます。

連結では約一億円の赤字

一方、水道事業会計を除

平成20年度 寝屋川市会計別決算の概要

(単位：千円)

会計区分	歳入総額	歳出総額	実質収支額
一般会計	71,728,728	71,542,291	186,437
国民健康保険特別会計	27,354,728	29,833,987	△2,479,259
公共下水道事業特別会計	7,626,028	7,783,138	△157,110
老人保健医療特別会計	1,851,379	1,766,983	84,396
介護保険特別会計	11,549,345	11,073,573	475,772
後期高齢者医療特別会計	1,837,764	1,786,657	51,107
合計	121,947,972	123,786,629	△1,838,657

※歳出総額には、翌年度へ繰り越すべき財源を含む

赤字が大きく影響しています。

国保の収納率アップが課題

国保会計の歳入は、一般会計からの繰入金が約一億八〇〇〇万円増加したものの、不況の影響や後期高齢者医療制度の導入などで保険料の収納率が全体で六五％（前年度七〇・七％）と大きく低下し、収入額が約十一億二〇〇万円も減少

しました。
今後、「負担の公平」の観点からも、どのようにして収納率のアップを図るかが大きな課題です。

アウトカムで事業を評価

先月の決算審査特別委員会では、「新風ねがわ議員団」は、平成二〇年度の各事業について、単に結果（アウトプット）だけでなく、どのような効果や成果があったか（アウトカム）についても審査を行いました。

例えば、「寝屋川まつり」に、どれだけの予算を使って何人参加したかだけでなく、どのような効果や成果があったか（アウトカム）についても審査を行いました。行政評価の手法の一つで、サービスの供給側から見た指標（インプット指標・アウトプット指標）ではなく、サービスの受け手側から見た成果の指標（成果・市民の満足度など）をいう。

第38回・山さんのミニ市政報告会

〇日時 11月23日(月) 午後7時30分～
〇場所 池田東町集会所
◎どなたでも お気軽に ご参加ください!

— 九月議会「山さんの一般質問」 —

上・下水道の組織統合について

私は、去る九月八日（三〇日）に開かれた九月定例市議会一般質問を行い、

① 全国学力・学習状況調査の結果について

② 上下水道の組織統合について
③ 地域防災の拠点整備についての三項目について市理事者の考えを質しました。

（先月号の続きです）

② 上下水道の組織統合について

上下水道双方の考えは

〔山さんの質問（要旨）〕

昨年十二月議会での下水道使用料の改定にあたり、議会では将来の健全かつ効率的な事業運営を図るため、「上水道事業と下水道事業の組織統合」についての付帯決議を行った。

これについて、下水道室と

水道局では、それぞれのよう
に認識し、これまでどのよ
うな準備を進めてきたか。

〔下水道室の答弁（要旨）〕

昨年十二月議会での付帯決議については、大変重く受け止めています。

これまで、下水道室と水道局の管理職で協議を行い、先行市の事例や課題、問題点等について検討してきました。

下水道事業においては本来、公営企業会計への移行により、さらに効率的な事業運営を目指すことが基本であると考えています。



いつも笑顔で
元気な山さん

しかし、公営企業会計への移行には、新たに資産台帳を整備するなど財政的負担を伴う準備作業（3年程度の期間と数千万円規模の経費）が必要であり、現在、先行市の事例も参考にしながら、移行の効果、問題点等について検討しているところです。

〔水道局の答弁（要旨）〕

水道局においても、今後の企業運営と市民サービスの提供のあり方を見据える中で下水道室と協議を重ね、検討を進めているところです。

近年、組織統合を進められた先行市の事例を見ますと、3年程度の計画期間において上下水道の窓口業務の一体化及び下水道事業の企業会計化への移行等に取り組まれ、組織統合をされている傾向があります。

いずれにしても、下水道室と組織統合のあり方についてどのような形態がよいか、早急に結論を得るべく協議を重ねてまいります。

山さんの「コラム」

夫婦は「絆」「それとも」忍

毎月二二日を「夫婦の日」、十一月二二日を「いい夫婦の日」と言うらしい。

昨年の十一月二二日の日経新聞に「夫婦について」のアンケート結果が載っていた。

「夫婦について、漢字一字で表すと？」という質問に対して、二十代の既婚者で一番多かったのは「絆（きずな）」で、続いて「信」「愛」の順であった。「方六十代の回答は「忍」が一番で、後は「愛」と「和」が続いた。

初めは固い絆で結ばれた夫婦も、四〇年も経過すると「忍の一字」で結ばれているのが現実だということだろうか。因みに、このアンケートの最後に「生まれ変わっても、今の配偶者と結婚したいか？」との質問に対して、男性の回答者の七割が「はい」だったが、女性の回答者の半数は「いいえ」だったそうだ。